
八戸駅前広場整備基本計画



※八戸駅西口駅前広場完成イメージパース

平成 27 年 3 月

八戸市

は じ め に

八戸駅周辺地域は、平成 14 年 12 月の東北新幹線八戸・盛岡間の開業で新幹線駅として生まれ変わった八戸駅を中心に、北奥羽地域と八戸市の玄関口として、広域的な公共交通結節点としての利便性を生かした賑わいと交流の場となるまちづくりを目指している。

八戸駅東口駅前広場は、その利用形態において幾度かの変遷を経て、新幹線開業にあわせ現在の運用を開始している。

また八戸駅西口では、現在「八戸駅西土地区画整理事業」が進められており、新たな玄関口として、健全で活力あるまちづくりを目指している。

八戸駅西口駅前広場については、新幹線駅として開業以来 10 年以上の期間を暫定供用しているが、土地区画整理事業において、周辺の都市計画道路と共に平成 29 年度内の完成を目指し整備を検討していることから、駅全体の利便性向上を目的とした機能の再配置について、課題整理や整備方針の検討が急務となった。

そうした背景を受け、本「八戸駅前広場整備基本計画」は、東口駅前広場も含めた駅周辺の現状把握と課題整理、東西駅前広場の新たな機能分担等の検討を行い、整備の基本方針を策定したものである。

目 次

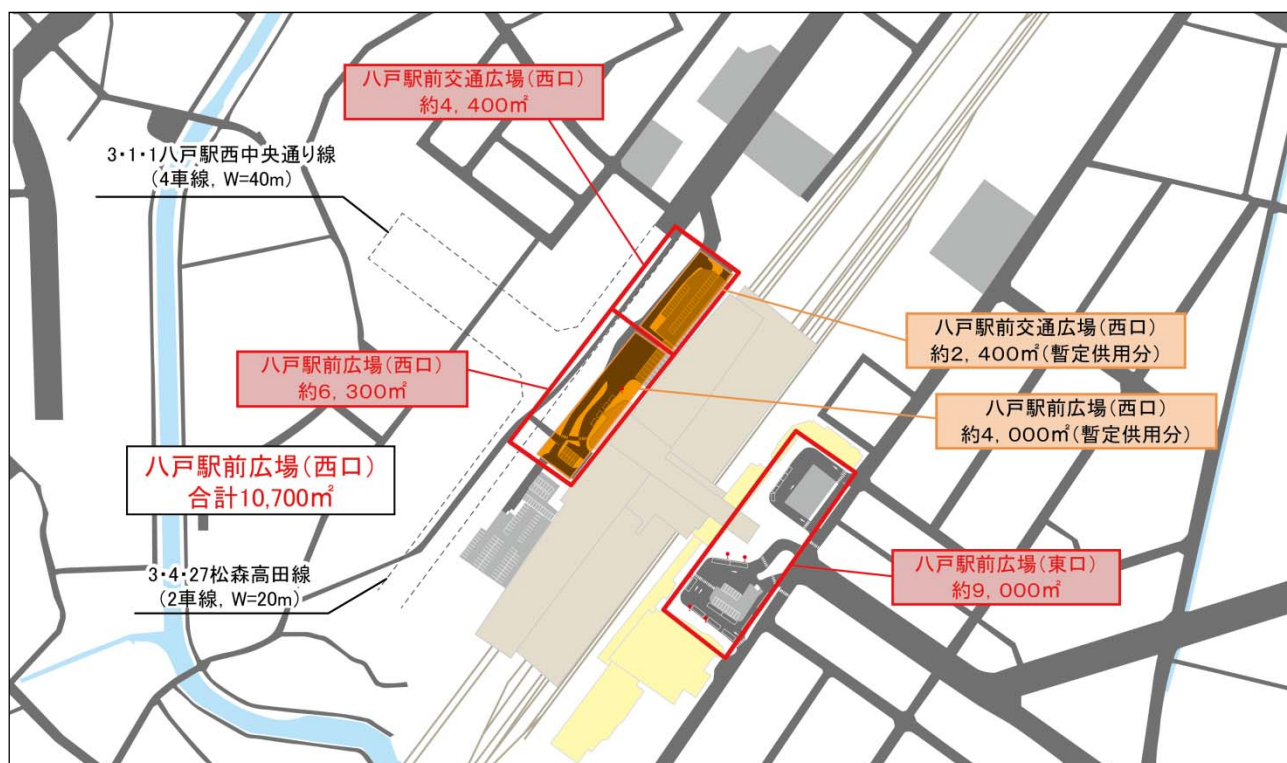
1. 八戸駅前広場整備基本計画検討について	
1-1. 対象地域.....	1
1-2. 検討の進め方	2
(1) 目的.....	2
(2) 進め方	2
2. 現況と課題の整理	
(1) 市民意見からみた八戸駅周辺地区の問題点	3
(2) 交通に関する問題点.....	4
(3) バリアフリーに関する問題点	5
(4) 案内・情報提供に関する問題点.....	6
3. 整備目標	
(1) 八戸駅周辺地区の将来像	7
(2) 八戸駅前広場の整備方向性.....	9
(3) 方向性 1：便利でやさしい<えきまえ>	11
(4) 方向性 2：賑わい・集う<えきまえ>	15
(5) 方向性 3：美しく誇れる<えきまえ>	19
4. 整備計画	
4-1 整備計画（東口）	
(1) 計画条件	24
(2) 整備計画	25
4-2 整備計画（西口）	
(1) 計画条件	26
(2) 整備計画	27
(3) 西口駅前広場デザイン案	28
5. 整備計画とりまとめ（西口）	33
 参考資料	
●八戸駅西口駅前広場イメージパース	34
●八戸駅前広場整備基本計画検討委員会 委員名簿.....	35
●用語説明	36

1. 八戸駅前広場整備基本計画検討について

1-1. 対象地域

- ・八戸駅東口駅前広場については、供用されている現在のエリア、西口駅前広場については、都市計画決定されている八戸駅前広場(西口)と八戸駅前交通広場(西口)を対象とした。
- ・なお、西口駅前広場については、面する都市計画道路を含めた検討とした。

分類	東西	名称	現況 (暫定供用分)	計画
駅前広場	西口	八戸駅前交通広場	約 2,400m ²	約 4,400m ²
		八戸駅前広場	約 4,000m ²	約 6,300m ²
		合計	約 6,400m ² ※平成 14 年暫定整備	約 10,700m ²
	東口	八戸駅前広場	約 9,000m ² ※平成 3 年整備 平成 14 年一部改良	約 9,000m ²
	合計	合計	約 15,400m ²	約 19,700m ²
都市計画 道路	西口	3・1・1 八戸駅西中央通り線	—	4 車線 W=40m
		3・4・27 松森高田線	—	2 車線 W=20m



▲位置図

1-2. 検討の進め方

- ・検討においては、「八戸駅前広場整備基本計画検討委員会」を設置し、検討を進めた。以下に検討委員会の目的、体制等を示す。

(1) 目的

- ・現在暫定供用中である八戸駅西口駅前広場について、本格供用に向けた整備を検討中(平成29年度末完成予定)である。
- ・これに先立ち、東口広場も含めた利便性の向上と機能的な施設の配置等について、現況アンケート調査や課題整理、整備に関する検討を行い、包括的な基本方針を定めるため、学識経験者や公共交通事業、八戸駅周辺地区代表者及び関係行政機関の計12名で構成する「八戸駅前広場整備基本計画検討委員会」を設置し、意見を取りまとめ、「八戸駅前広場整備基本計画」を策定したものである。

(2) 進め方

- ・以下に実施した委員会の進め方を示す。



2. 現況と課題の整理

- ・地区の現状や交通実態調査、アンケート調査の結果などを踏まえ、八戸駅周辺地区の問題点は以下のように整理できる。

(1) 市民意見からみた八戸駅周辺地区の問題点

- ・アンケート結果の概要を、交通施設別に整理した。

	市民意見	
	満足度	個別意見
バス	利用しにくい 16% ・便数少ない ・わかりにくい	・朝、中心街までのバスが少ない ・バス停が複数あり、すぐにどのバス停に行けば良いかわからない。 ・市営と南部バスの停留所がごちゃごちゃ
タクシー	利用しにくい 5% ・料金が高い ・乗場が遠い	・乗車場所が離れている、わからない ・西口が少ない、遅い時間までいてほしい ・タクシーの待機面積が広すぎる。いつも何台も待機している。利用実績に応じて縮小すべきなのでは？
自家用車	利用しにくい 46% ・駐車場・乗降場の不足 ・配置・構造上の問題	・短時間無料の駐車場があまりにも少ない。駅まで送ってもらって降りられる場所を増やしてほしい。 ・西口を利用させるための道路とかを整備しないと不便で利用したくない ・自家用車乗降場が狭くていつもいっぱい停められない。タクシーのスペースが大きすぎる。
歩行環境	安全・安心が確保されていない 15% ・歩行空間が狭い、不足している ・信号の歩行者横断時間が不足	・バリアフリー化が進んでほしい ・歩車道分離を明確に ・歩道、道路が狭い ・タクシー駐車スペース、歩行スペース、水はけ悪く冬危ない ・歩行者信号が短い ・ルールが守られていない
広場	憩いや潤いを感じられない 36% ・たまりの空間が少ない ・緑が少ない ・殺風景	・観光案内を見ながら休む場所を ・休憩できる場所がない ・噴水広場にベンチもなくスペースとるなら憩い場増やすべき ・昔からさびれたままで、活気がない ・狭い、殺風景 ・広場をもっと有効に ・おもてなし精神を反映したサイン表示努めて欲しい ・美がない。花とかほしい。

(2) 交通に関する問題点

● 東口に導入機能が集中し、東西広場の機能分担が必要

- ・バスの発着シェアが、東口に 98%であるように、バスやタクシーなどの交通施設は、東口に集中している。一方西口は、暫定的な形状であるが、東西の自家用車利用台数(乗降のみ)は、東西で同程度の実態であり、利用実態を踏まえた東西広場の機能分担が必要である。



▲東西のバスの発着シェア



▲東西の自家用車利用台数(乗降のみ)

※交通実態調査(平日・休日合計)より

● 交通環境の変化に合わせた東西役割分担が必要

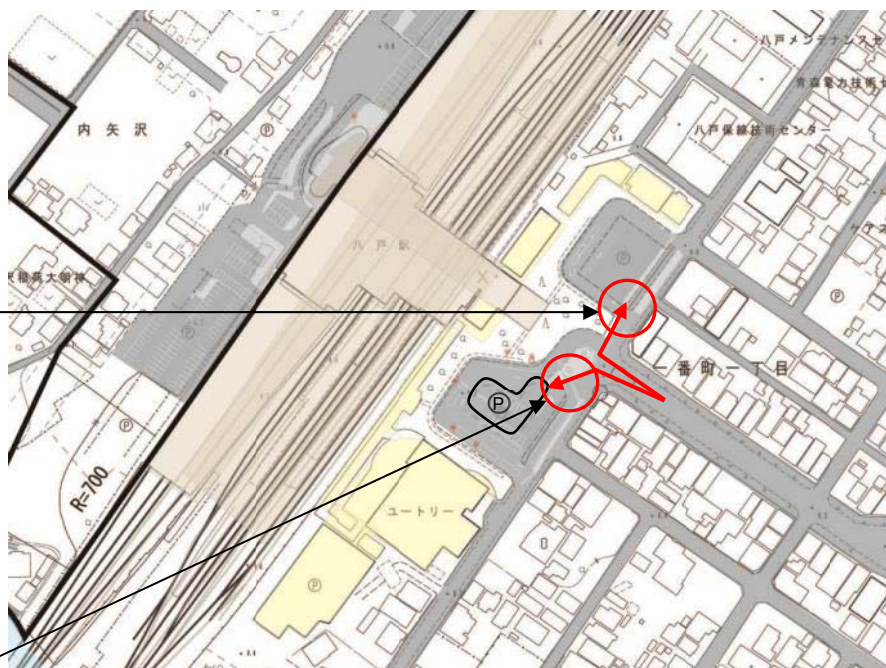
- ・近年中に整備が予定されている(仮)八戸西スマートインターチェンジにより、八戸駅、特に西口から東北自動車道までのアクセスが向上する。そのため、高速バスや観光バス等の広域交通においては、西口の優位性が高まるため、将来を見据えた東西の機能分担が求められる。

● 自家用車の乗降、駐車需要への対応

- ・自家用車利用者からの満足度は最も低く、乗降場や駐車場の増設を望む声が最も多い。乗降場については、東口は、動線の錯綜が見られ、配置場所のわかりにくさの指摘が多い。駐車場については、短時間駐車場は、東口の需要は逼迫しているが、西口の短時間駐車場は、余裕が見られる。また、P&R駐車場は、全体的には需要が高い状態と言え、駐車需要を見据えた対応が求められる。

● 東口短時間駐車場が満車の状態で、輻輳し、混雑している

- ・東口短時間駐車場は、利用が多く、満車状態であることが多い。そのため、駐車場待機車が直結する駅前交差点にあふれるとともに、バスプール内への侵入を余儀なくされ、バスとの接触事故が発生している。また、駅前交差点の構造から動線の複雑さ、わかりにくさをまねき、無理な進入などの発生が見受けられる。



● タクシープールが過大傾向

- ・東口駅前広場において、タクシープールの待機台数が、乗車台数を上回り、平均待機時間は、60 分を超え駐車場化している。
- ・利用者意見では、タクシー利用者の満足度は高いが、待機スペースが過大という指摘が多い。



▲東口のタクシープール

● 観光・送迎バスの需要に応じた対応

- ・東口に1バース、西口に10バースの降車場や待機スペースが設けられているが、利用実態としては、非常に限定的である。恒常的な利用実態とイベント時などの特殊な利用時を踏まえた柔軟な対応が求められる。



▲西口の観光・送迎バス

● 歩行者動線の確保

- ・東口においては、歩行者横断箇所が多く、利用者の最も多い駅前交差点横断歩道は、信号時間が短い、交錯して危険など安全を確保した円滑な歩行者動線の確保が課題。



▲東口駅前交差点横断歩道

(3) バリアフリーに関する問題点

● 冬季・降雨時への対応

- ・積雪、降雨時に円滑に駅内へアクセスする動線確保の声が多い。

● 身体障害者用の乗降場確保

- ・東口・西口共に身体障害者用乗降場がなく、優先的にアクセス可能な乗降場の確保が求められる。

(4) 案内・情報提供に関する問題点

● 多種多様な案内誘導サインとわかりにくい誘導

- ・ 広告や誘導サインの混在や多種多様な誘導サインが無秩序に配置されている上、ユートリーへの誘導がわかりにくいなど、駅改札から自由通路、駅前広場に至る連続的な動線を考慮した誘導が求められる。



▲混在する広告や誘導サイン
(新幹線改札口前)



▲混在する誘導サイン
(東口2階踊り場)



▲わかりにくいユートリーへの誘導サイン (東口3階階段前)

● 景観性や統一感に欠けるサイン

- ・ 駅前広場内においては、仮設的なサインが多いこともあり、意匠や色彩が異なるサインが異なり、景観性や統一感に欠けるサインとなっている。



(東口駅前広場正面出口前)



(東口駅前広場自家用車乗降場)



(東口駅前広場前交差点)

▲景観性・統一感に欠けるサイン

● 機能性やユニバーサルへの配慮

- ・ 表記項目や地図の統一及び観光資源等をアピールできるような案内サインが求められる。また、身体障害者や外国人利用者にも配慮したユニバーサルなサインが今後より求められる。

(例えば外国人に対応した多言語表記、視覚障害者に対応した音声案内、聴覚障害者に対応した触地図など)



(西口駅前広場駅舎前)



(西口駅前広場駅舎前)



(西口駅前広場駅舎前)

▲わかりやすさ、観光アピールに欠ける西口駅前広場の案内サイン

3. 整備目標

(1) 八戸駅周辺地区の将来像

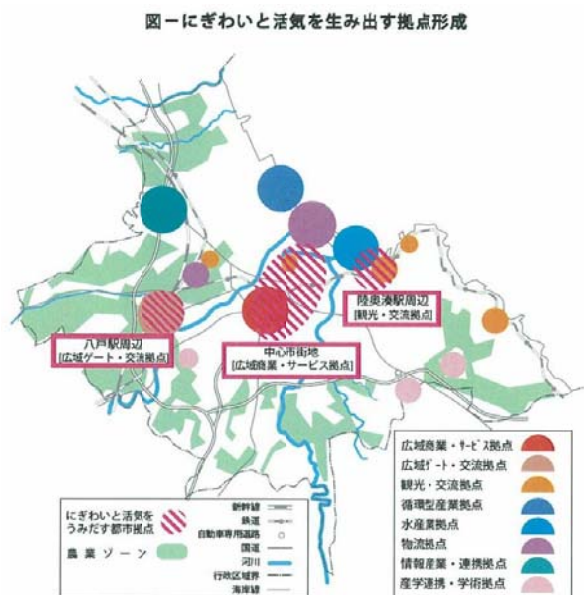
- ・上位計画における八戸駅周辺地区の位置づけ、八戸駅周辺地区の現状と課題を踏まえ、まちづくりの方向性を示す。

■上位計画における八戸駅周辺地区の位置づけ

「八戸市の広域ゲート、交流拠点で

中心拠点を補完する地域拠点」

- ・高速交通の結節点となるターミナル機能の充実
- ・情報発信、観光案内機能の充実
- ・観光機能や宿泊機能、商業・サービス機能の誘導
- ・八戸の顔となるような象徴的な施設整備

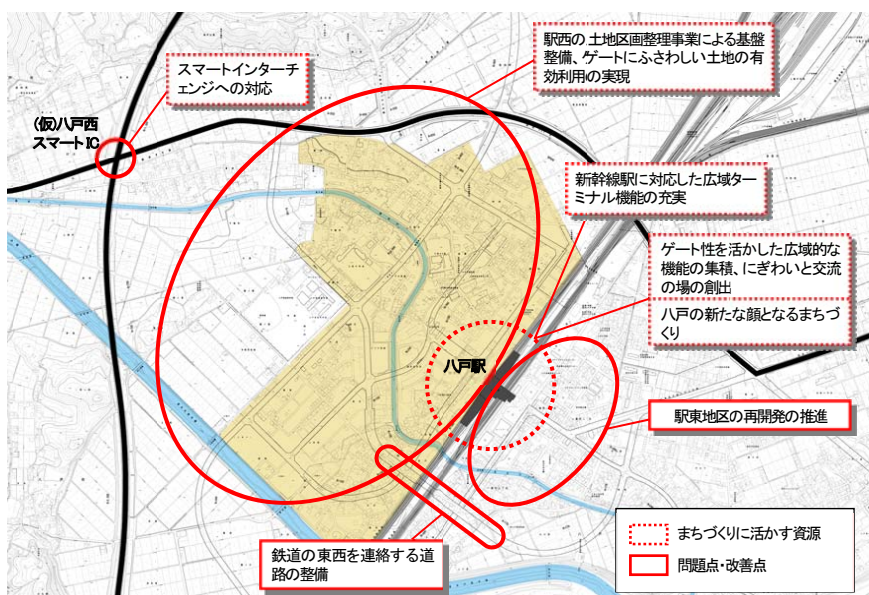


▲にぎわいと活気を生み出す拠点形成
(八戸市都市計画マスタープランより)

■八戸駅周辺地区の現状と課題

(1) 都市機能

- ・八戸の新たな顔となるまちづくり
- ・ゲート性を活かした広域的な機能の集積、賑わいと交流の場の創造
- ・駅東地区の広域的な機能の集積
- ・駅西地区の土地区画整理



(2) 交通機能

▲課題図 (八戸市都市計画マスタープランより作成)

- ・新幹線駅及びスマートICに対応した広域ターミナル機能の充実
- ・鉄道の東西を連絡する道路の整備

- ・鉄道やバス交通など広域的な交通ターミナルとしての機能を強化
- ・八戸の顔となる交流と賑わいの拠点を形成

- ・ 駅東、駅西地区ともに、広域集客施設や商業・業務施設の集積
- ・ ハ戸駅東西駅前は、広域ゲート・交流拠点の形成
- ・ 駅西地区は、緑の保全、田園風景と調和した街並み

- ・(仮) 八戸西スマート IC の整備を進め、八戸駅からの広域交通のアクセス向上
- ・駅西地区の八戸駅前から新たな賑わいが連続するシンボルロード整備
- ・駅東地区は、中心市街地との連絡を強化

- ・駅西地区は、残されている緑を保全、浅水川の水辺を活用

- ・東西駅前、八戸の顔となる美しい都市景観へ誘導、シンボリックな空間に



(2) 八戸駅前広場の整備方向性

- ・駅前広場の現状と課題を踏まえ、駅前広場の整備方向性を示す。

■駅前広場の現状と課題

(1) 交通

- ・東口に導入機能が集中し、東西広場の機能分担（図①）
- ・交通環境の変化（八戸西スマートIC等）にあわせた東西役割分担
- ・自家用車の乗降、駐車需要への対応
- ・東口短時間駐車場が満車の状態で、駐車場入り口で混雑し、バス車両と錯綜（図②）
- ・タクシープールが過大傾向
- ・観光・送迎バスの需要に応じた対応
- ・歩行者動線の確保

(2) バリアフリー

- ・冬期・降雨時の対応
- ・身体障害者用の乗降場確保

(3) 交流

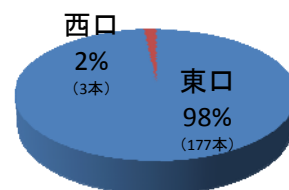
- ・休憩・待ち合わせスペースの不足
- ・イベントスペースの不足

(4) 景観

- ・八戸の顔（シンボル）となる空間の不足
- ・緑地・公園の不足

(5) 案内・情報提供（図③）

- ・多種多様な案内誘導サインとわかりにくい誘導
- ・景観性や統一感に欠けるサイン
- ・機能性やユニバーサルデザインへの配慮



▲東西のバスの発着シェア（図①）



▲東口短時間駐車場の混雑（図②）



▲混在する広告や誘導サイン（図③）

■八戸駅西地区に求められる機能

(1) 駅西土地区画整理事業と一体となった新市街地形成

- ・西口駅前広場を含めた新たな市街地（97ha、計画人口5,800人）が、事業中（H9～H35）
- ・新たな居住者及び来訪者に対応した駅前広場が求められる

(2) シンボルロードと一体となった空間づくり

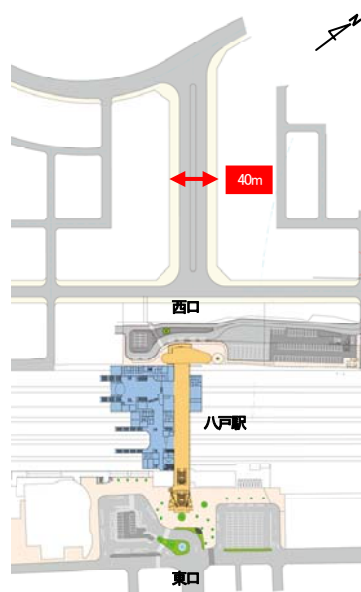
- ・西口駅前広場は、シンボルロード（W=40m）と接続し、地域を代表する空間づくりが求められる

(3) 広域交通の結節機能強化

- ・（仮）八戸西スマートICが整備されると高速交通へのアクセスが向上し、広域交通との結節機能強化が求められる



▲主な事業



■駅前広場に求められる機能



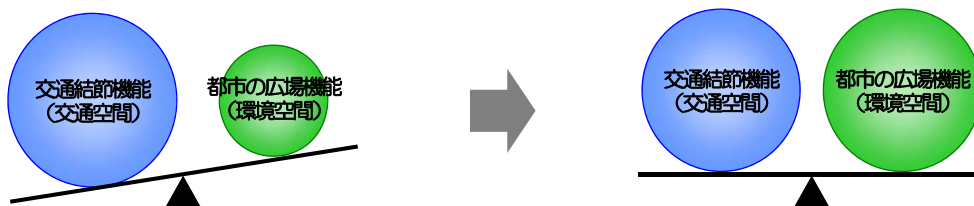
▲イメージ（日向市駅の駅前広場）

【従来の駅前広場】

- ・交通機能に特化し、バス、タクシー、自動車等の交通空間が多くを占有

【これからの駅前広場】

- ・街の中心的な核として集い、憩い、賑わい、交流する活性化の契機となる空間に



■駅前広場の整備方向性

整備コンセプト

地域・来訪者・自然が身近で、共生する八戸の顔づくり

地域・来訪者が、気軽に不自由なく利用でき、新たな市街地、自然と一体となって共生し、八戸を感じることができる新たな玄関口の創出

1. 便利でやさしいくえきまえ>

交通結節点として、快適で利便性が高く、利用者に優しい空間や交通手段を提供するくえきまえ>づくり

- 適切な東西役割分担
- わかりやすい動線で利便性の高い交通結節空間づくり
- 利用者に優しく、わかりやすい空間づくり

2. 賑わい・集うくえきまえ>

新たな市街地の顔として、駅前通り（シンボルロード）と一体となり、来訪者・住民が出会い、集い、賑わいが生まれるくえきまえ>づくり

- シンボルロードと連続した一体的な賑わい空間づくり
- 来訪者、地域住民が集える空間づくり

3. 美しく誇れるくえきまえ>

八戸の顔として、来訪者にとって八戸を感じられる地域性を持ち、地域の人たちが誇れる新たな風景となるくえきまえ>づくり

- 八戸の顔となる駅前景観づくり ○自然と調和した憩いの景観づくり
- 風格・品位を備えた誇れる空間

(3) 方向性1：便利でやさしくえきまえ＞

交通結節点として、快適で利便性が高く、利用者に優しい空間や交通手段を提供するくえきまえ＞づくり

- 適切な東西役割分担
- わかりやすい動線で利便性の高い交通結節空間づくり
- 利用者に優しく、わかりやすい空間づくり

①適切な東西役割分担

西口

- ・新市街地住民や学生（三条小・三条中・八戸西高）の徒歩・自転車での日常的な利用を支える機能
- ・バス、タクシー等の公共交通は、東口を補完する機能
- ・観光・送迎バス、高速バス、レンタカーなどの広域交通の結節機能

東口

- ・来訪者を含め駅東市街地、駅前商店街での徒歩・自転車利用を支える機能
- ・中心市街地と密接に連絡するバス、タクシー等の公共交通の結節機能
- ・太平洋側への広域交通を支える機能

▼東西機能分担の基本的な考え方

		西 口	東 口
短距離の移動	徒歩、自転車での住民の日常的な利用範囲	駅西新市街地 (区画整理エリア) 徒歩・自転車 (新住民、学生)	駅東市街地 徒歩・自転車 (住民、来訪者)
中距離の移動	公共交通（バス、タクシー）や自家用車での日常的な利用範囲	東口を補完 バス・タクシー 自家用車	バス、タクシーの多頻度運行を支える 中心市街地
長距離の移動	観光・高速バス等の広域交通での利用範囲	青森方面 仙台・関東方面 広域交通を支える (仮)八戸スマートIC 十和田方面	三陸復興国立公園方面
交通機能の基本的な考え方	路線バス	△：補完機能	◎：主要機能
	高速バス	◎：主要機能	△：補完機能
	観光送迎バス	◎：主要機能	△：補完機能
	タクシー	△：補完機能（最小限）	◎：主要機能
	自家用車	○：分担	○：分担
	自転車	○：分担	○：分担

②わかりやすい動線で利便性の高い交通結節空間づくり

■公共交通と自動車動線の分離

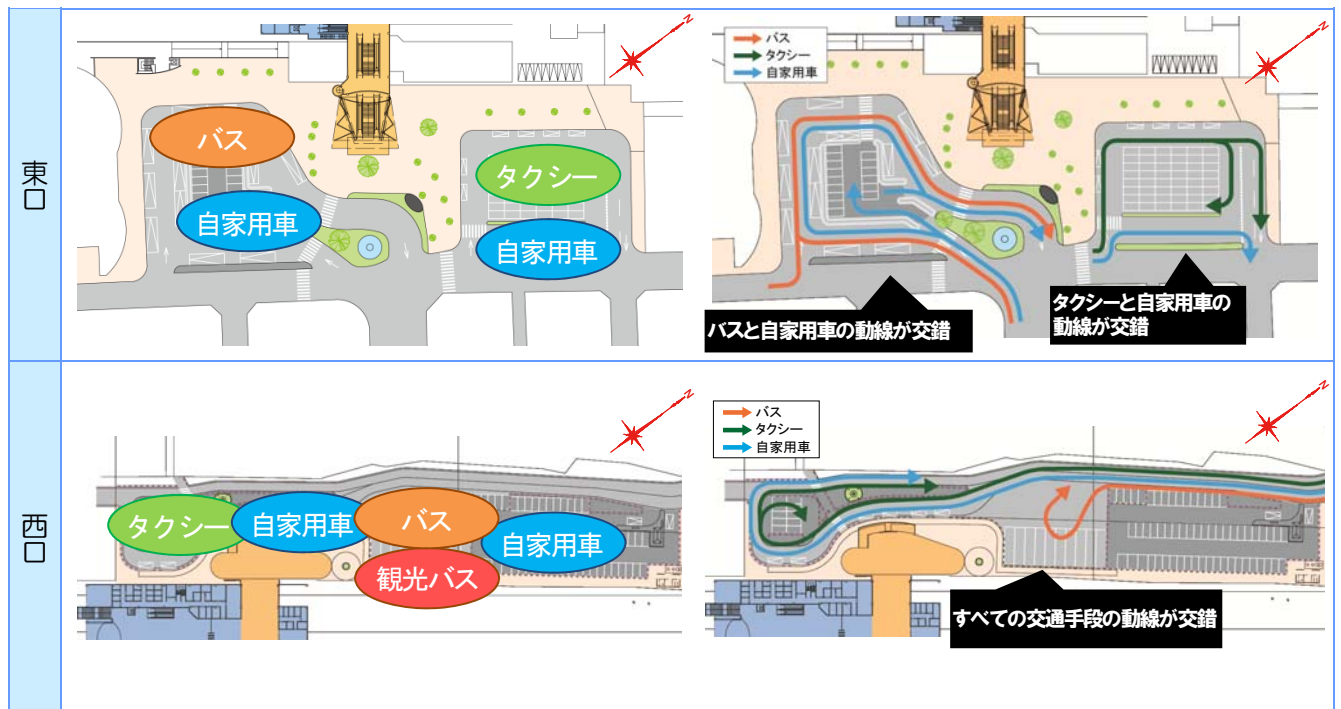
- ・東口、西口ともに、バスと自家用車及びタクシーの動線が重なり、錯綜している他、東口は、自家用車乗降場と短時間駐車場の出入口が異なるなど、わかりにくい動線が課題

→歩行者、バス、タクシー、自家用車のそれぞれの動線を明確にし、互いの交錯を極力避ける。

→交通施設のレイアウト上、動線分離を図るため、交通手段ごとに施設を極力集約させる。

◎西口：公共交通系（バス・タクシー）と自家用車で動線分離

◎東口：動線分離を図る配置を今後検証



▲交通手段別の動線（現状）

③利用者に優しく、わかりやすい空間づくり

■利用者に優しい空間づくり

- ・東口、西口ともに、身体障害者用乗降場がなく、優先的にアクセス可能な乗降場の確保が課題である
 - ・駅前広場の新設・改良時には、バリアフリー化基準（移動等円滑化基準）等に適合させる義務がある
 - ※高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）、H18.12 施行
 - ※障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）H28.4 施行にも留意
- フラットで、バリアのない、誰もが利用できる空間
- 雨・雪に濡れずに移動できる動線確保（シェルター設置等）
- 身体障害者用乗降場の設置

◎西口：フラットなバリアフリー空間／動線上のシェルターの設置／身体障害者専用駐車場設置

◎東口：身体障害者用乗降場の設置を検討



▲駅出入口から延びるシェルター（八戸駅東口）



▲身体障害者専用の乗降場（仙台駅西口）

■来訪者にも伝わるわかりやすい案内・情報提供

- ・多種多様な案内誘導サインでわかりくさが課題

→連続的な動線を考慮した案内サイン設置

→景観性や統一感を持ったサイン

◎西口：統一感を持ったわかりやすいシンプルな案内サイン設置、サイン計画の策定（実施設計）

◎東口：今後の整備時期に合わせたサインの更新



▲案内サインは日向灘の青色をモチーフとした
「日向ブルー」で統一 （日向市駅）



▲統一的なデザインで景観性の高い案内サイン
（博多駅博多口）

(4) 方向性2：賑わい・集うくえきまえ>

新たな市街地の顔として、駅前通り（シンボルロード）と一体となり、来訪者・住民が出会い、集い、賑わいが生まれるくえきまえ>づくり

○シンボルロードと連続した一体的な賑わい空間づくり

○来訪者、地域住民が集える空間づくり

<賑わいの形成イメージ>

- ・「駅西センター地区の面的な賑わい」、「賑わいの拠点からシンボルロードに続く連続的な賑わい」と、既存の「東口からの賑わい」を積極的につなげ、人々を誘引する「賑わいの結節点」としての機能充実を図る。
- ・また、隣接する民地や周辺住民と連携しながら、ソフト面での工夫、公共空間の有効活用を図る。



①シンボルロードと連続した一体的な賑わい空間づくり

- ・西口駅前通りは、連続性のある歩行空間、賑わいの用途に限定した整備が予定されている
- シンボルロードでの賑わいと連動する歩行者動線、空間の確保
- 駅前広場からシンボルロードに誘導する空間的な連続性を確保する広場配置及び付属物の配置（植栽や道路付属物など）

◎西口：シンボルロードへの動線・空間的な連続性（植栽・付属物等）を確保

◎東口：駅前通りに接続する広場空間の再整備検討



▲シンボルロードと連続した空間構成
(博多駅博多口)



▲シンボルロード軸と駅舎の交差部に設けられた
イベント広場（博多駅博多口）

②来訪者、地域住民が集える空間づくり

■西口は、新住民・来訪者のコミュニケーションスペース

- ・東口は、日常的なイベント（朝市）や大規模イベントを実施。
- ・東口は、イベントスペースが手狭である上、イベント開催ニーズがそれほど高くない

→西口は、イベント空間を確保、特に、新住民を交えたコミュニケーションのスペースとしての機能を付加

○東西の役割分担の考え方と導入機能

	西 口	東西連絡通路	東 口
イメージ			
賑わい・集う機能	オン（イベント等）、 オフ（住民利用）に対応し た賑わい空間	日常的に賑わう空間	周辺と一体的に賑わう空間
日常的利用	・集合・待ち合わせ・集う ・住民を含めた公園的利用 ・カフェテラス等屋台的飲食サービス	・集合・待ち合わせ ・物販、飲食店舗 ・店頭販売（物産品等）	・物販、飲食店舗
非日常的利用	・ステージを利用したイベント ・テントや屋台等の物販・飲食イベント ・地域（学校等）のイベント	・イベント（記念イベント、祭り等） ※ステージ設置も	・イベント（記念イベント、広域的な祭り） ※年3回実施程度 ・朝市（毎週日曜日）



▲ナニヤドヤラ廻道ふるさとフェスタ（H26. 8）



▲八戸駅ふれあい祭り（H26. 10）

■住民利用も想定した憩いのスペースとイベントスペースの確保

- ・ベンチや待合所など、利用者がゆっくりできるスペースが不足している
- ・住民の利用を想定した空間づくりが必要
- ・地域と来訪者の交流イベントへの対応

→来訪者がゆっくりできる待合スペースの確保（ベンチや休憩スペース）

→地域参加型のイベントに対応可能なイベントスペースの確保

◎西口：普段づかい、住民利用を想定した交流広場、地域に密着したイベント対応可能な広場

◎東口：手狭で、動線が錯綜する交流広場の再整備検討

○西口の賑わい・集う導入機能

ターゲット	日常的利用	非日常的利用
来訪者 (業務／観光)	・集合・待ち合わせ・集う (個人・観光送迎バス) ・休憩	・イベント参加 ・買物 ・交流
日常利用者 (通勤・通学/買物他)	・送迎（出迎え、見送り） ・休憩	・イベント参加 ・買物 ・交流
住民 (散歩、遊び)	・散歩（高齢者・ファミリー層） ・遊び（子ども）	・地域イベント開催・参加（住民・中高生） ・商業イベント開催・出店 ・買物 ・交流
導入機能	・腰を下ろせるもの（ベンチ、芝生 等） ・待ち合わせスペース (観光送迎バス待機含め) ・休憩サービス（カフェテラス等屋台的飲食サービス等） ・設置スペース	・ステージ（設置可能スペース） ・テント・屋台（設置スペース含め）



▲待ち合わせスペース（博多駅博多口）

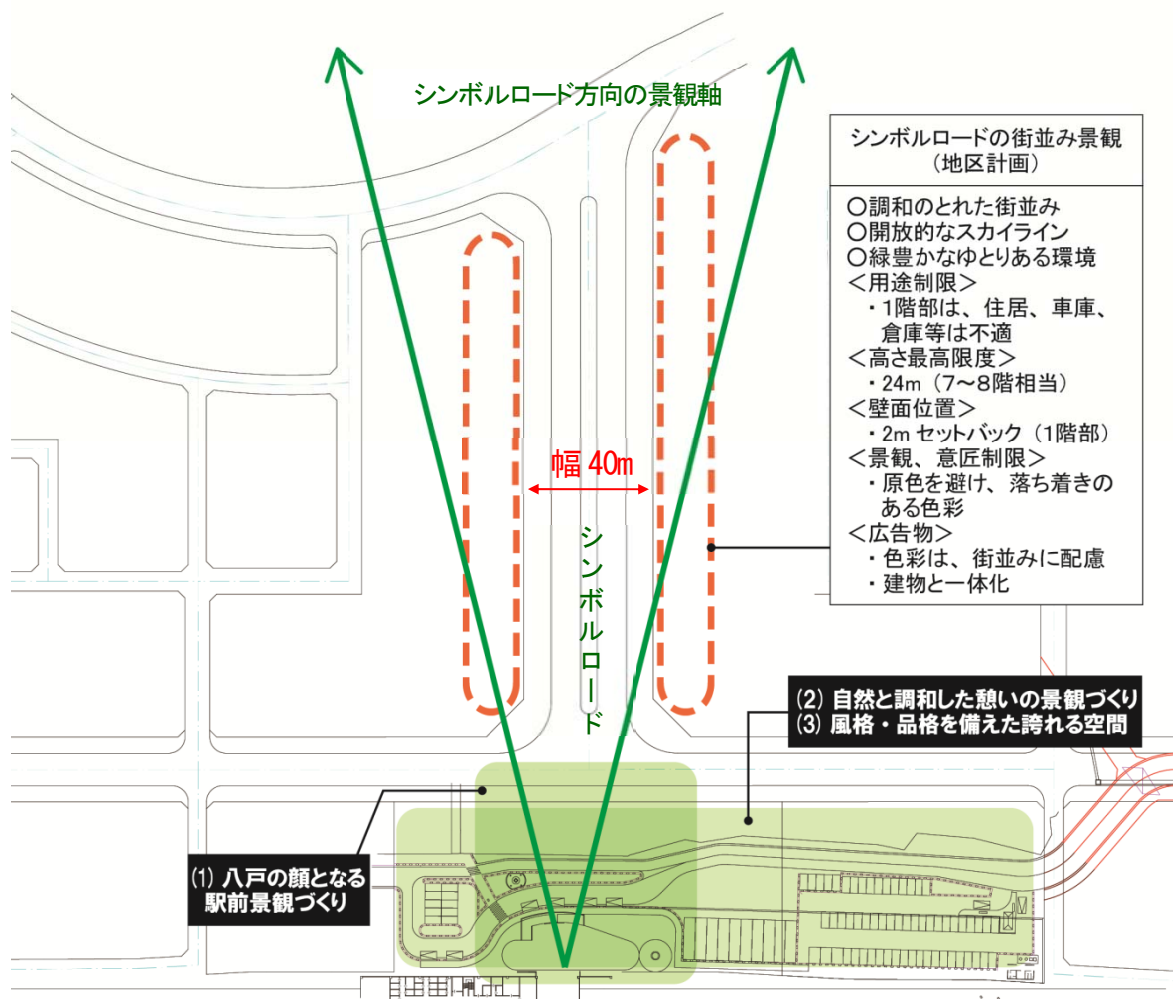


▲イベントに対応した駅前広場とその隣接公園（日向市駅）

(5) 方向性3：美しく誇れるくえきまえ>

八戸の顔として、来訪者にとって八戸を感じられる地域性を持ち、地域の人たちが誇れる新たな風景となるくえきまえ>づくり

- 八戸の顔となる駅前景観づくり
- 自然と調和した憩いの景観づくり
- 風格・品位を備えた誇れる空間



①八戸の顔となる駅前景観づくり

■シンボルロードの街並みと調和する一体的な景観づくり

- ・八戸の新たな顔となる西口は、シンボルロードで、調和のとれた街並み、開放的なスカイライン、緑豊かな環境が形成される

→落ち着いた色彩や効果的な植栽配置によりシンボルロードの街並みと調和する一体的な景観づくり

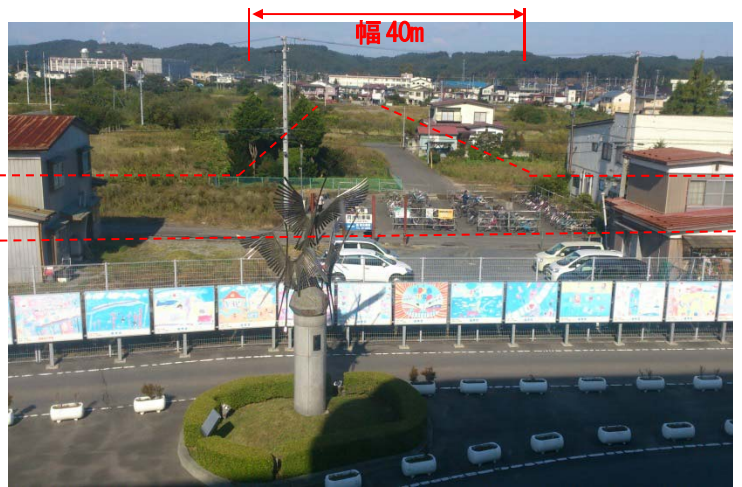
→シンボルロードから連続する植栽（列植等）

◎西口：シンボルロードとの景観調和（色彩・植栽配置等）、シンボルツリーの配置検討

◎東口：※将来的に交流広場の拡充検討に合わせ検討



▲シンボルロード（幅員 27m）と一体的で効果的な植栽（博多駅博多口）



▲現在の西口（八戸駅自由通路よりシンボルロード方面）

■印象的な植栽による演出

- ・東口のシンボルツリーは、動線の障害になっている。効果的で、印象的な植栽の演出が求められる
- 西口は、動線や視線を踏まえ、視認性の高く、地域性のあるシンボルツリーの配置を検討
- 来訪者を迎い入れるもてなしの植栽の配置

◎西口：シンボルロードと一体となった迎い入れる景観づくり（植栽の工夫）、
シンボルツリーの配置検討

◎東口：※将来的に交流広場の拡充検討に合わせ検討



▲印象的なシンボルツリーと
ラウンドアバウトの植栽出迎え（日向市駅）



▲東口のシンボルツリーであるイチイ（八戸駅）
※イチイ（オンコ）は、市の木

※参考：シンボルツリー（候補例）



▲西口のつつじ（八戸駅）
※駅西土地区画整理事業記念植樹



▲隣接する南部町の町の木であるアカマツ（南部町）
※法光寺参道松並木、南部町 HP より

②自然と調和した憩いの景観づくり

■水と緑のネットワーク化ともてなしの植栽

- ・八戸駅周辺は、八戸市緑の基本計画において、緑化重点地区となっており、緑豊かな都市のゲート・顔、緑化先導モデル地区
- ・浅水川の水と緑のネットワークを形成し、うるおいを感じ、交流する地区として位置づけられている
- 周辺の自然環境を活かし、**周辺道路緑化と連続**した駅前広場内の緑化
- 水と緑のネットワーク化**を図る（水の潤いを感じる水景施設の設置など）
- もてなし、交流するための植栽の演出**（プランターボックス、緑陰、駐車場緑化、四季の彩り）

◎西口：四季を感じる多様な植栽を配植

◎東口：※将来的に交流広場の拡充検討に合わせ検討



▲緑化重点地区となっている八戸駅周辺地区の緑化方針図（H16.3 八戸市緑の基本計画）

基本方針		緑化目標	具体策
①	八戸駅周辺を緑豊かな都市のゲート・顔	・「緑の出会いと交流ゾーン」の形成、ゲートとしてのイメージ強化	市街地の緑化（街路樹、歩道植栽、建物敷地の緑化、生垣等）
		・商業施設の集積地区で、来街者へのホスピタリティを高める	プランター等による積極的緑化
		・緑の中の駅一出会いと交流空間の実現	道路緑化を推進
②	八戸駅西地区を都市の緑化先導モデル	・「交流・うるおいゾーン」を形成	シンボルロード及び近隣公園が一体となった新しい緑
③	まちなかの水と緑のネットワークを形成	・八戸駅から中心市街地及び観光地、主要施設を結ぶ道路については、重点的に緑化	緑のネットワークの主軸（対象路線：八戸駅西中央通り線、尻内百石線、尻内田面木線）

▲八戸駅周辺地区の緑化方針と緑化目標（H16.3 八戸市緑の基本計画）

③風格・品位を備えた誇れる空間

■八戸らしさを表現する素材や色彩の工夫

- ・来訪者が八戸とを感じる空間がない
- ・地域や歴史への配慮が必要
- 統一感があり、煩雑さのない駅前広場景観（落ちついた色彩）
- 地域性・歴史性・時間性を踏まえた素材の採用※1
- 来訪者をあたたかく迎え入れるベンチや付帯施設のデザイン
- 夜の景観への配慮（光の演出）

◎西口：木材を組み合わせた素材を活用

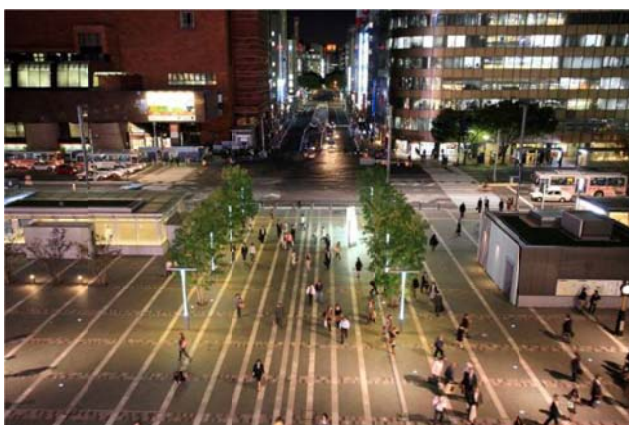
◎東口：※将来的に交流広場の拡充検討に合わせ検討



▲風格のある素材の組合せ（日向市駅）



▲地域の素材である杉のベンチ（日向市駅）



▲演出された歩道照明が通りへ連続（博多駅博多口）
出典：国土交通省 HP より



～八戸ポータルミュージアム「はっち」～
※アカマツの床板



～市民の森不習岳総合案内施設～
※床材はアカマツ、屋外ウッドデッキは青森ヒバ
▲地域材の利用（八戸市）※1

※1：八戸市公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針（H24.3）：シンボル性が高い公共建築物に地域材を積極的に使用し、地域材の利用拡大を図るもの

4. 整備計画

4-1. 整備計画 (東口)

(1) 計画条件

◎東口駅前広場については、改善の方向性を検討する位置づけ

◎今後利用者、事業者と改善を検討するベース案を作成する位置づけ

[敷地条件]

a. 現駅前広場(約9,000m²)で拡大・縮小させない

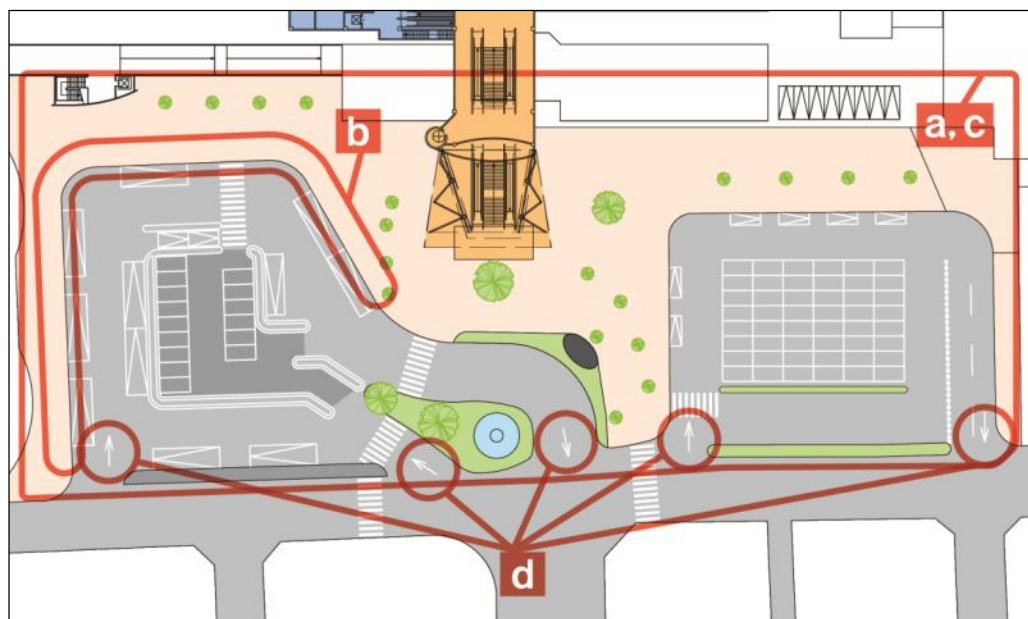
[広場内の配置条件]

b. バス乗降場(1番～5番、降車専用)の位置は変更しない

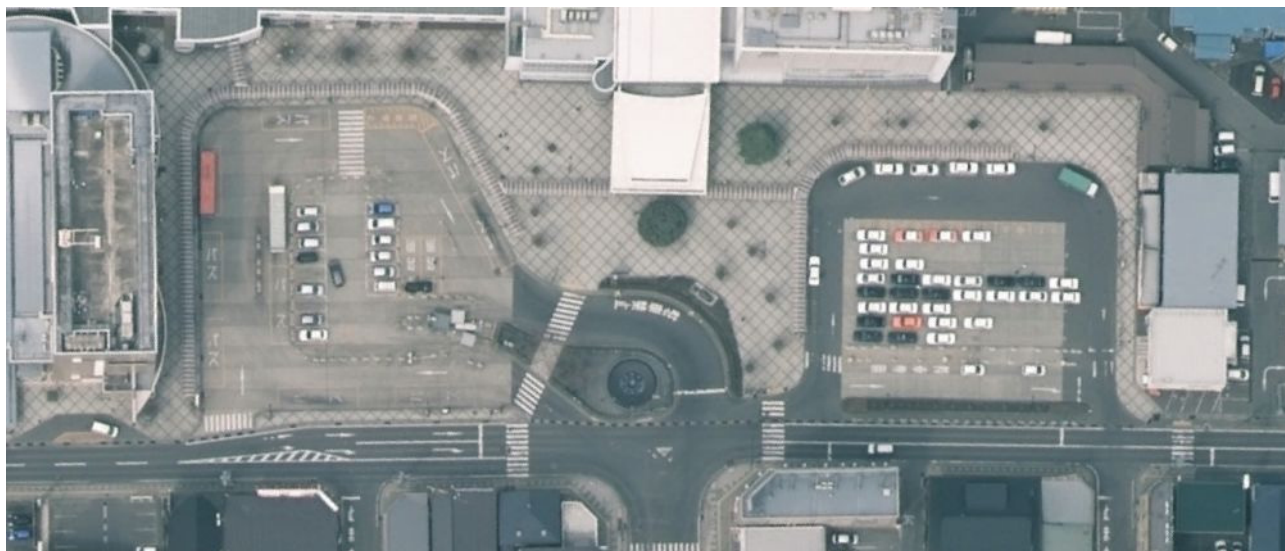
c. 既存の施設(シェルター等)は極力活用する

[出入口条件]

d. 既存の出入口の位置・数は増やさない(減らすことは可とする)



※航空写真(東口駅前広場)



(2) 整備計画

①基本配置案の検討

・以下に改善方向性（案）を示す。

改善方向性 （案）	項目	改善方向性（案）	
	■レイアウトについて	○バスと自家用車の動線分離 ○タクシーと自家用車の共存配置検討（今後継続検討）	
	■タクシーについて	○タクシープール ：現状利用に余裕を持たせた最低限の削減 →西口、一番町バスプール等でのショットガン方式など代替策を検討 ○活用スペース ：タクシーと自家用車の錯綜に配慮しながら、導入機能を検討 →今後、事業者との意見交換しながら方策を検討	
	■路線・高速バス、観光・送迎バスについて	○路線・高速バスの位置づけ ：主要機能として、バス専用空間に ※高速バスは、将来的には、西口活用を含めて検討 ○観光・送迎バスの位置づけ ：待機場は、西口に確保。東口は、現在同様に降車場機能のみ →西口と機能分担 ○降車場・待合空間の充実 ：→駅舎の近くに降車スペースを広く配置 ：→路線バスを含め、雨風のしのげる待合空間の設置を今後検討	
	■自家用車短時間駐車場・乗降場について	○身体障害者対応の乗降場 ：→駅舎に近い場所に、新たに設置 ○自家用車スペース（乗降場及び短時間駐車場） ：バスとの錯綜回避、待ち行列を発生させない構造 →タクシープール側への移設検討（今後継続検討） ○活用スペース ：タクシーと自家用車の錯綜に配慮しながら、導入機能を検討 →今後、事業者との意見交換しながら方策を検討	
	■今後の進め方	○当委員会：改善の方向性（案）について意見聴取 ○来年度以降：利用者、事業者意見を伺いながら改善策を継続検討	



※八戸駅東口の具体的な改善方向性については、今後、関係事業者との意見交換を継続し、方策の検討、対策の実施を行うこととします。

4-2 整備計画（西口）

(1) 計画条件

◎西口駅前広場については、整備を見据えた基本計画の位置づけ

[敷地]

- a. 都市計画決定されている八戸駅前広場（西口）（約 6,300m²）に加え、八戸駅前交通広場（西口）（約 4,400m²）を含めたレイアウトを検討する

[広場内の配置条件]

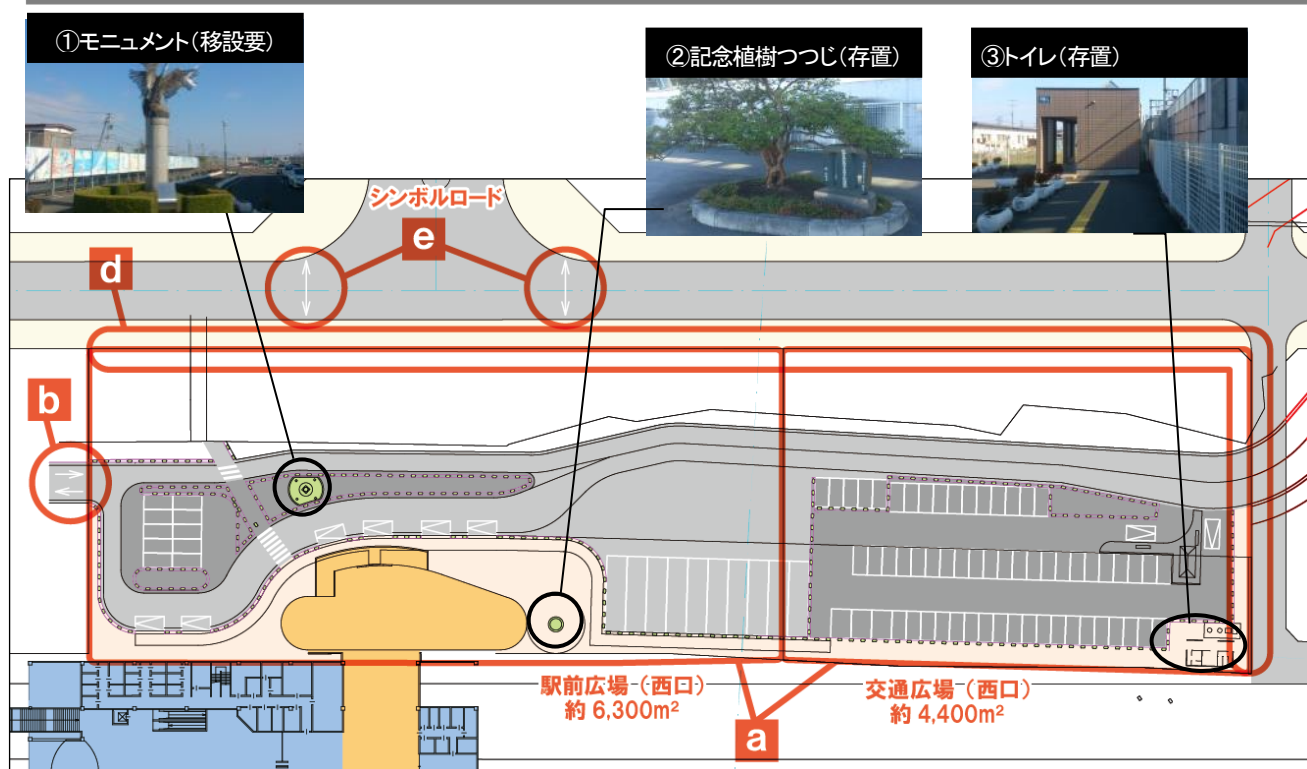
- b. 駅レンタカーの店舗出入口を確保しない敷地が北側に新設される道路に接道するため
c. 既存の施設は全面的に撤去及び移設（※ただし、①モニュメントは移設、②つつじ③トイレは存置）

[出入口]

- d. 広場内の出入口は、敷地に面する道路に位置・数を含め検討する

[歩行者動線]

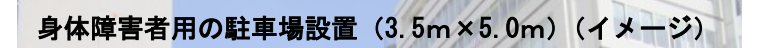
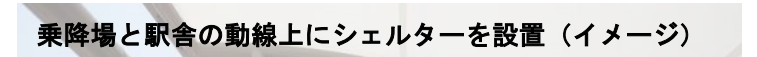
- e. シンボルロードへのアプローチとして、広場からシンボルロードの歩行者動線を確保する



※航空写真（西口駅前広場）



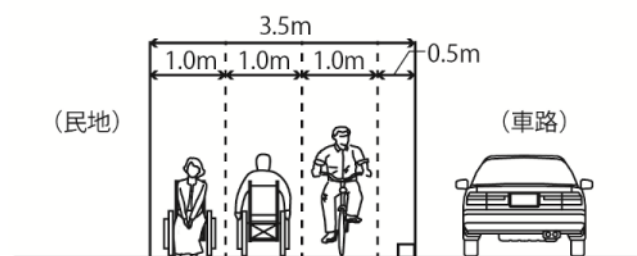
- ・以下に西口駅前広場の整備計画を示す。



駐輪場の整備（イメージ）

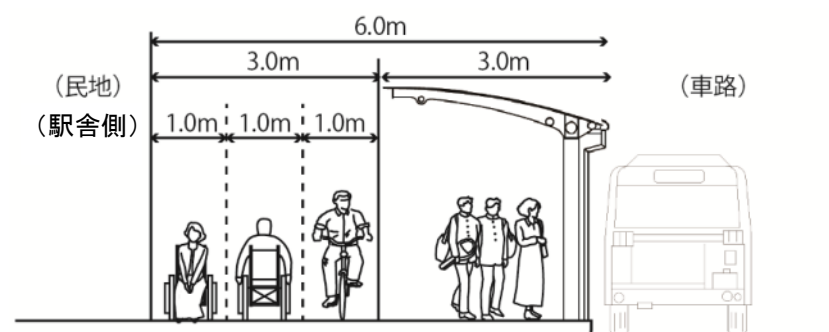
車室の寸法		
	乗降場	プール, 駐車場
バス	3.0m × 13.0m	3.3m × 13.0m
自家用車	2.5m × 5.0m	2.5m × 5.0m
タクシー	2.5m × 5.0m	3.0m × 6.0m
身障者用	—	3.5m × 5.0m

▼横断図 (A-A')



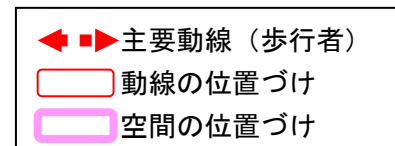
※自転車歩行道として、必要とされる幅員 3.5m を確保

▼横断図 (B-B')



※乗降スペースを加味して、6.0m 確保

(3) 西口駅前広場デザイン案
①動線及び空間配置の位置づけ

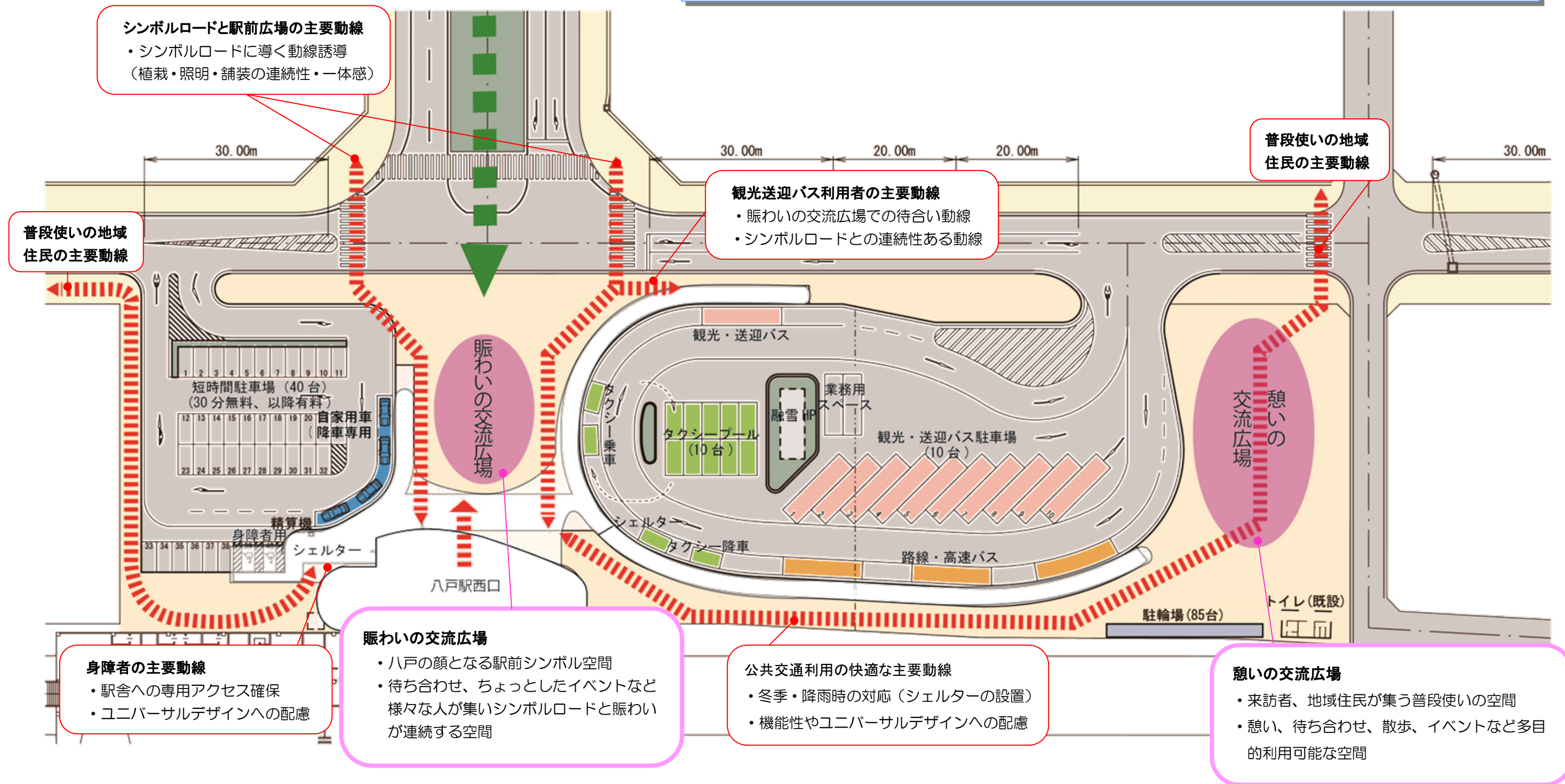


■動線設定の考え方

- ・各交通施設（バス・タクシー・自家用車）と2つの交流広場（賑わい・憩い）、そしてシンボルロードを結ぶ、安全で快適な歩行動線を確保
- ・特に、バス、タクシー、自家用車とのアクセスは、シェルターの設置等で、降雨・冬季でも快適性を確保
- ・安全性に配慮し、バス・タクシー・自家用車の駅前広場出入口における歩行者の横断動線は確保しない

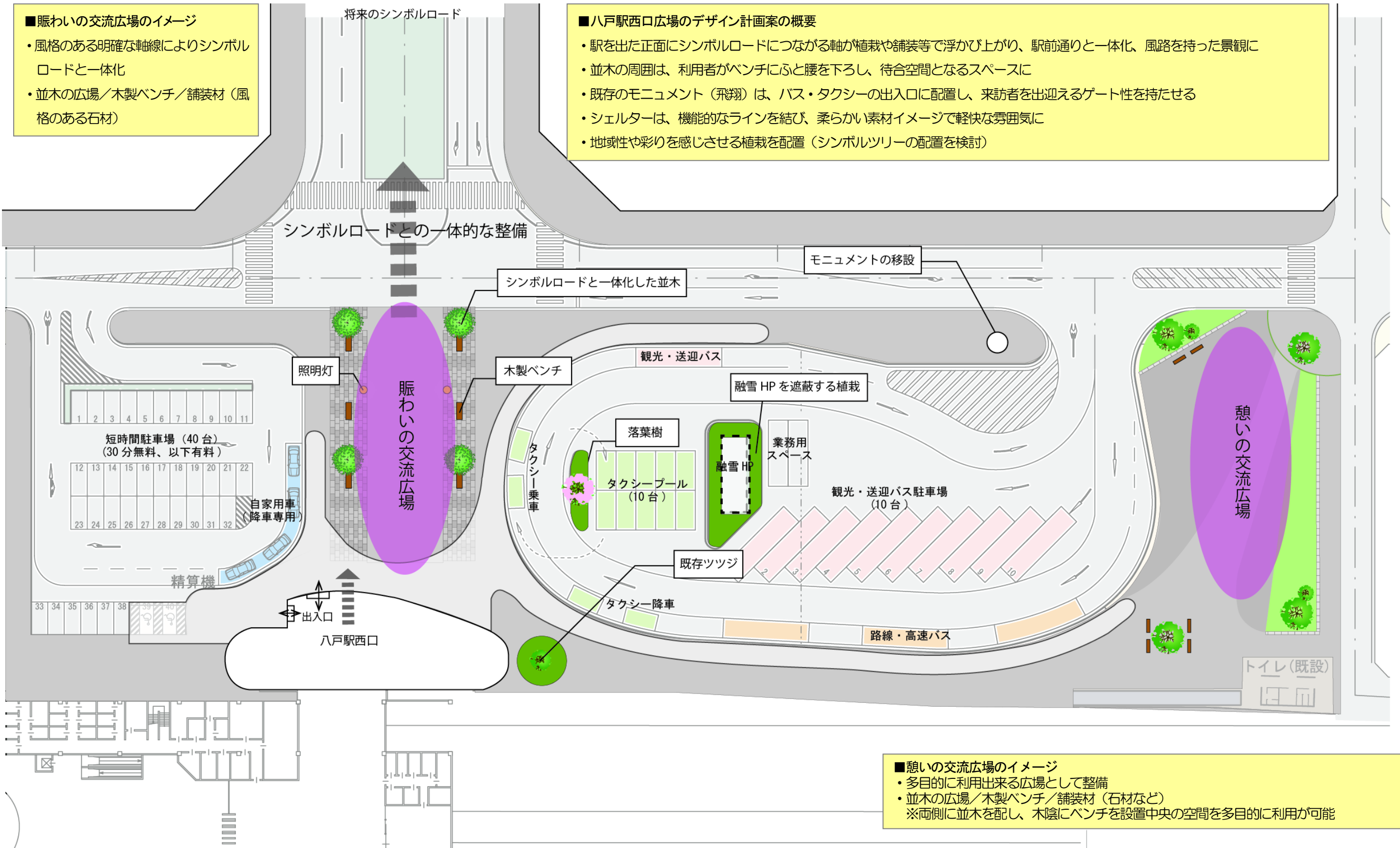
■空間配置の位置づけ

- ・交通機能別の明確な空間分離（右側：公共交通系（バス・タクシー）、左側：自家用車）
- ・駅舎正面の交流広場は、あらゆる動線・空間が結節する「賑わいの交流広場」として位置づけ
- ・右端の交流広場は、地域住民の普段使いとイベント時対応可能な「憩いの交流広場」として位置づけ



②全体デザイン案

・交流広場（賑わいの交流広場、憩いの交流広場）の具体的なイメージを含めた全体のデザイン計画案を以下に示す。

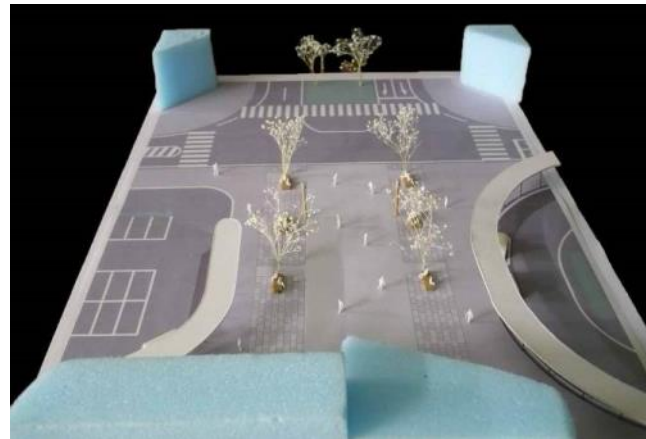


③賑わいの交流広場デザイン案

・駅舎正面にあたる「賑わいの交流広場」のデザイン案を以下に示す。

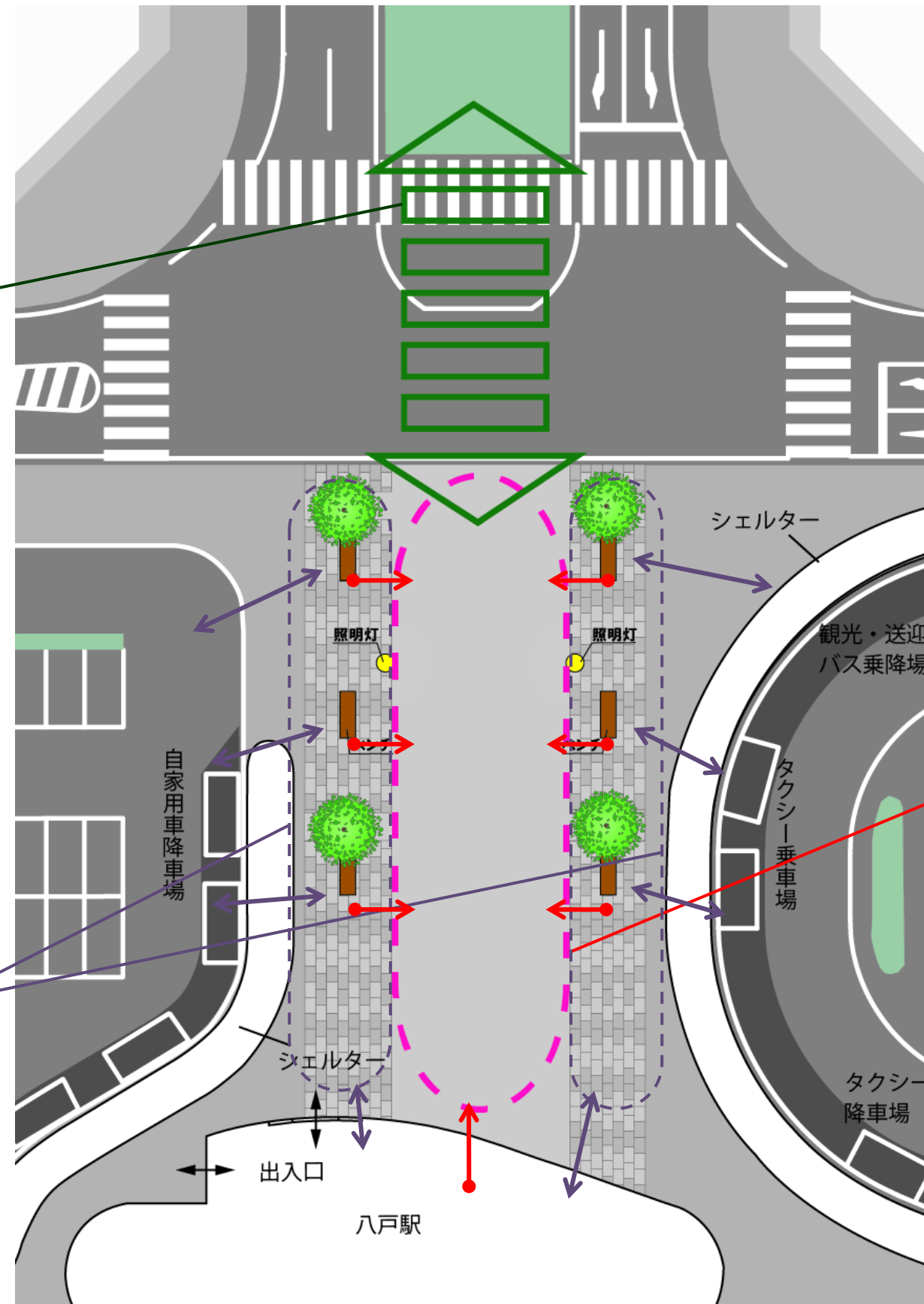
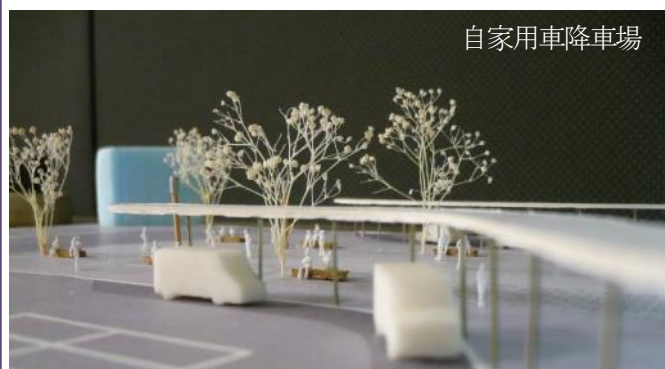
シンボルロードとの一体性

- 駅舎からシンボルロードへの視線誘導
(見通し確保)
- 植栽の連続性



待合空間の確保

- 乗降場近くに配置
 - ・自家用車の送迎待ち、観光・送迎バスの待ち合いに利用可能な待合空間(ベンチ等)



イベント空間の配置

- 軸線上の中央にイベント可能スペースを確保

(連続性)

- ・シンボルロードにつながる賑わいの連続

(景観)

- ・軸線上への視線誘導

(利用イメージ)

- ・軸線上への仮設店舗(マルシェ等イメージ)
- ・ユーティリティの高い広場

※面積は、500m²程度。ふるさとフェスタ(1400m²)などの大規模イベントは困難だが、ストリート型のイベント(朝市 150m²)に対応



④その他デザイン上の留意点

■シェルターデザイン

基本方針：軽快感のあり、すっきりとしたデザイン

- ・広場全体を覆うため、圧迫感のない軽快性（透過性）とすっきりとしたデザインに



▲軽快感のある膜構造



▲膜と木材の組み合わせ

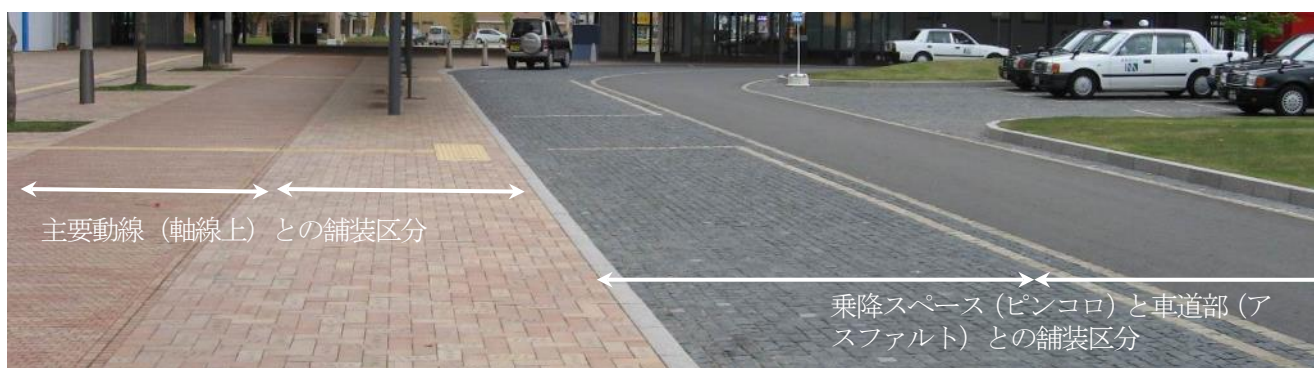


▲ハニカムと木材の組み合わせ

■舗装デザイン

基本方針：駅前の風格とメリハリの利いたデザイン

- ・誰もが快適に歩ける構造（平坦性、排水性など）であるとともに、駅前としての風格を備える素材や軸線や動線を強調する舗装パターンに



▲メリハリの利いたデザイン例

■ストリートファニチャー

（ベンチ）

基本方針：デザイン、素材、仕上げは、四季を通した快適性や維持管理に配慮

- ・形態は、待ち合わせ場所や、短時間の休憩が主であることから、平ベンチまたはサークルベンチを空間特性に応じて使い分ける。
- ・素材は、屋外空間であるため、温度変化が少なく四季を通じて快適に利用できる素材（樹脂・再生木材等）



▲平ベンチ



▲サークルベンチ



▲平ベンチ

■サイン

基本方針：案内・誘導をシステム化し、最小限でシンプルなデザイン、色彩等の調和を

■ サイン計画の基本的な考え方

① ユニバーサルデザインへの対応

- ・観光客だけでなく、海外からの訪れる人など、不特定多数の情報弱者を対象とする（外国語表記への対応等）。また、身体障害者への対応策を検討（例：音声案内や触地図など）

② ピクトグラム（絵文字）の活用

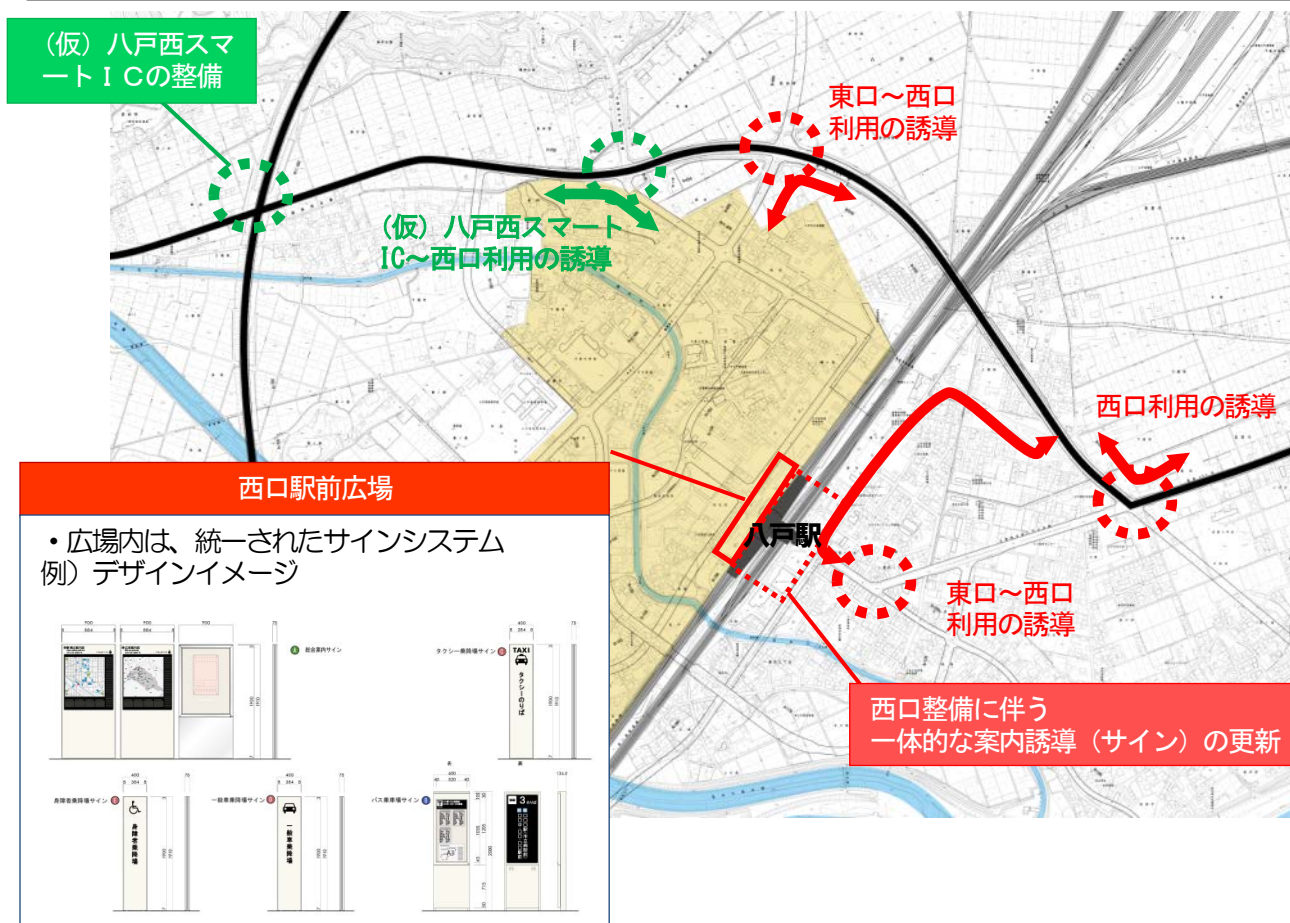
- ・文字に比べ視認性に優れるため、表示に文字の代用として、あるいは文字と併用して効果的に表現する。

③ 効果的、効率的に情報を伝達できるサイン配置（下図）

- ・地域の人々しか知らないような地域資源は、発生・集中地点での総合的な案内情報の他、目的ポイントまでを誘導サインなどを配置・補完するなどして、効果的、効率よく情報を伝達する。
- ・また、利用促進を図るため、東口駅前広場へのアクセス道路からの誘導や（仮）八戸西スマートICからの誘導など広域的な案内誘導を図る。

④ 駅舎やシンボルロードの街並みなど、環境と調和するデザイン

- ・サインは工作物として景観や環境に配慮したデザインとする。その場合、認知されにくい、わかりにくいなど、機能的な問題が生じないようにする。



八戸駅西口駅前広場整備基本計画

(平成 27 年 3 月策定)

賑わいの交流広場

- ・シンボルロードと一体性のある景観
- ・八戸の新たな顔となる風格を備えた景観
- ・空間軸に沿った使い勝手のよい待ち合せ空間
- ・ストリート型のイベントにも対応した空間



優しい空間づくり

- ・駅舎～乗降場に連続するシェルター
- ・冬期に対応したロードヒーティング
- ・スムーズな乗り降り実現するフラットな構造

シェルターイメージ例



憩いの交流広場

- ・地域住民の普段使える憩いの空間
- ・イベントにも対応できる使い勝手のいい空間



将来のシンボルロード

シンボルロードとの一体的な整備

シンボルロードと一体化した並木

観光送迎バス

- ・八戸西スマートIC整備を見据え、観光需要、広域移動に対応した乗降場・駐車場

モニュメントの移設

観光・送迎バス

融雪 HP を遮蔽する植栽

落葉樹

タクシープール (10 台)

融雪 HP

業務用スペース

観光・送迎バス駐車場 (10 台)

既存ツツジ

タクシー降車

路線・高速バス

憩いの交流広場

トイレ(既設)

自家用車乗降場・短時間駐車場

- ・利用者意見を見据え専用空間確保
- ・待ち行列が発生しにくい工夫 (フラップ式、満空表示)
- ・身障者専用駐車場を用意 (2 台)



タクシー

- ・乗車・降車場の整備
- ・将来の利用増にも対応可能なタクシープール

路線バス・高速バス

- ・公共交通 (バス・タクシー) 専用空間
- ・八戸駅西土地区画整理事業や八戸西スマートIC等による路線の西口活用を含めた乗降場の整備

自転車

- ・通学利用を見据えた駐輪場整備

参考資料

●八戸駅西口駅前広場イメージパース：駅正面より



※（基本計画のイメージであるため、今後の実施設計で変更となる可能性があります）

参考資料

●八戸駅前広場整備基本計画検討委員会 委員名簿

機関名	役職	氏名	区分
○学識経験者			
八戸工業大学	教授	武山 泰	交通専門
八戸工業高等専門学校	教授	今野 恵喜	交通専門
○公共交通事業者			
東日本旅客鉄道株式会社	八戸駅長	福島 徳美	鉄道事業者
南部バス株式会社	部長	佐藤 欽一	路線バス事業者 (貸切・高速バス)
三八五バス株式会社	常務取締役	村上 貴孝	貸切バス事業者
八戸市タクシー協会	会長	小笠原 修	タクシー事業者
○八戸駅周辺地区の代表			
(社)八戸市社会福祉協議会	常務理事	梅内 昭統	福祉関係者
八戸市議会議員		大島 一男	地元選出議員
はちのへ観光復興委員会	副委員長	中川原 俊雄	観光・商工関係
駅西土地区画整理審議会	会長	赤澤 榮治	地元地権者
青森県立八戸西高等学校	教諭	釜石 隆	学校関係者
○関係行政機関の職員			
青森県警察 八戸警察署	交通官	杉山 肇	交通管理者

参考資料

●用語説明

あ

アクセス

交通の便。接近すること。

か

K&R（キスアンドライド）

自宅から公共交通機関の乗降場（駅やバス停など）まで自動車等で家族に送り迎えをしてもらう通勤・通学形態。乗り降りの際にキスをしてから、乗り換えることから生まれた言葉。

ゲート／ゲート性

玄関口。都市の玄関口としての役割。

ゲート式（駐車場）

駐車場出入口にゲートが設置され、入口では、チケットを発行し、出口で精算する方式。

コンセンサス

議論等を通じて、相互の意見の一致を図る過程。

さ

サイン

案内用看板・標識。

障害者差別解消法

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）。

国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律（施行は一部の附則を除き平成 28 年 4 月 1 日）。

シェア

どれくらいの割合を占めているかを示す比率。

シェルター

天候等から身を守るための雨風をしのげる場所。

シンボルロード

地域の特性を活かした整備を行い、人々に親しみとうるおいを与え、快適で美しく、楽しい道路空間。

ショットガン方式（タクシー）

駅周辺等における客待ちタクシーの待機列を解消するため、駅の乗車場及びタクシープールから離れた場所にタクシープールを確保し、タクシーの駅の乗車場及びタクシープールへの流入を調整するシステム。

ストリートファニチャー

街路備品。街灯・ベンチ・電話ボックスなど家具的なものをさす

スマートインターチェンジ

高速道路の本線上（本線直結型）またはサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）、バスストップ（BS）に設置されている ETC 専用のインターチェンジ（IC）である。「スマート IC」や「SIC」と表記されることもある。

た

ターミナル

バスや鉄道などの交通路線が集中し、発着する所、乗換え拠点。

は

バース

自家用車やバス等が停車する場所。

ハニカム

正六角形または正六角柱を隙間なく並べた構造。

バリアフリー

身体障害者や高齢者が生活する上で妨げになる障壁を取り去り、身体障害者等にやさしい生活空間を作り上げること。

バリアフリー化基準（移動等円滑化基準）

移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等、道路、路外駐車場、都市公園等の構造及び設備に関する基準を定める省令。

バリアフリー新法

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年6月21日法律第91号）。

高齢者、障害者等の自立した日常生活及び社会生活を確保することの重要性にかんがみ、公共交通機関の旅客施設及び車両等、道路、路外駐車場、公園施設並びに建築物の構造及び設備を改善するための措置、一定の地区における旅客施設、建築物等及びこれらの間の経路を構成する道路、駅前広場、通路その他の施設の一体的な整備を推進するための措置その他の措置を講ずることにより、高齢者、障害者等の移動上及び施設の利用上の利便性及び安全性の向上の促進を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする法律。

P&R（パークアンドライド）

自宅から自家用車で最寄りの駅、またはバス停まで行き、車を駐車させた後、バスや鉄道などの公共交通機関を利用して都心部の目的地に向かうシステム。

ピクトグラム（絵文字）

「絵文字」「絵単語」、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つ。

ピンコロ

舗装に用いられる石材の種類。10cm角程度の立方

体の、粗い表面の花崗岩（御影石）。

フラット

平ら・平坦な状態。

フラップ式（駐車場）

駐車場の駐車マスごとに昇降機（駐車すると自動的に駐車マス内に設置された昇降機が上昇し、料金精算をすると降下）が設置され、料金の精算は、精算機で集中管理する駐車場形式。

ホスピタリティ

心のこもったもてなし。手厚いもてなし。歓待。また、歓待の精神。

ま

マルシェ

市場（フランス語）。

メンテナンス

整備・維持・保守・点検・手入れ等。

モニュメント

記念碑、記念建物、記念館、銅像、慰霊碑、忠魂碑、忠霊塔など、何かを記念したり称えたりするために作られた作品のこと。

や

ユーティリティ

種々の用途をもつ、いろいろに使える。

ユートリー

八戸地域地場産業振興センターの愛称（八戸駅東口駅前広場に隣接し、立体駐車場を併設）。

ユニバーサルデザイン

障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいデザイン。

ラウンドアバウト

円形交差点。道路を円形のスペースを介して接続したもので、車両はこの中央島の周りの環状の道路（環道）を一方向に（右側通行なら反時計回り、左側通行なら時計回り）通行する。

平成 25 年 6 月に改正された道路交通法で、ラウンドアバウトが「環状交差点」の名称で位置づけられ、その定義、左折・右折・直進・転回の方法、他の車両等との関係、の 3 点が明確にされた。（施行は平成 26 年 9 月 1 日）。

ロードヒーティング

道路の融雪及び凍結防止のため路面の温度を上げる施設。

※図中の融雪HPは、ロードヒーティングを行うための設備機械を指している

八 戸 駅 前 広 場 整 備 基 本 計 画

平成 27 年 3 月

発行

八 戸 市

郵 便 番 号◆〒031-8686

住 所◆青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号

電 話 番 号◆0178-43-2111 (代)

ホ-ム°-ジ°ア°以◆<http://www.city.hachinohe.aomori.jp//>

編集

八戸市 都市整備部 都市政策課

電 話 番 号◆0178-43-9420 (直通)

F A X 番 号◆0178-41-2302

E-mail ア°以◆toshisei@city.hachinohe.aomori.jp

株式会社福山コンサルタント

電 話 番 号◆022-262-0119 (直通)

F A X 番 号◆022-216-5803